

带状疱疹ワクチン予防接種について

令和7年度より带状疱疹ワクチンの定期予防接種が開始しました。任意接種助成は引き続き行っています。

带状疱疹とは

带状疱疹は、水ぶくれを伴う発疹（水疱）が皮膚に分布している神経にそって帯状に出現する疾患です。子どもの頃に水痘（みずぼうそう）にかかり、成人の9割以上の方が抗体を持っていると言われています。しかし、带状疱疹の発症は50歳以上が多く、加齢による免疫力の低下が原因と考えられ、毎年約60万人が発症し、80歳までに約3人に1人が経験すると言われています。

带状疱疹ワクチン予防接種の対象者

任意接種・定期接種いずれか、一人1回限りの助成となります。

	任意接種	定期接種
対象者	占冠村に住民登録のある満50歳以上の方	65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳
助成額 接種料金	自己負担額の2分の1に相当する額 (助成額に上限あり)	課税世帯…生ワクチン 1,500円 不活化ワクチン 6,000円×2回 非課税世帯…自己負担なし

※下記の自己負担額は、村立診療所で接種した場合の料金です。

名称 (販売名)	乾燥弱毒生水痘ワクチン (ビケン)	乾燥組換え带状疱疹ワクチン (シングリックス)
種類	生ワクチン	不活化ワクチン
接種回数	1回	2回 (1回目から2か月あけて2回目を接種)
対象	50歳以上	
任意接種	自己負担額 2,500円	自己負担額 10,000円×2回
定期 接種	課税 自己負担額 1,500円 非課税 自己負担なし	自己負担額 6,000円×2回 自己負担なし
接種方法	皮下注射	筋肉注射
発症予防効果	69.8%	96.6%
持続性	5年程度	9年以上
副反応	接種部位の痛み、腫れ、 発赤（3日～1週間程度で消失） ※非常にまれにアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病などの重篤な副反応が現れることがあります	接種部位の痛み、発赤、腫れ、筋肉痛、全身倦怠感、悪寒、発熱など（3日～1週間程度で消失） ※非常にまれにアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病などの重篤な副反応が現れることがあります
接種を受けられない方	・化学療法やステロイドなど免疫を抑える治療をしている方 ・先天性、後天性免疫不全状態の方 ・強いアレルギー症状のある方 ・明らかな発熱（37.5以上）のある方	・強いアレルギー症状のある方 ・明らかな発熱（37.5以上）のある方

令和7年度から65歳以上の方などを対象に

带状疱疹ワクチンの 定期接種を実施します。



带状疱疹は、痛みを伴う皮膚の病気です

- 带状疱疹は、水痘带状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経に沿って、痛みを伴う水疱（水ぶくれ）が現れる皮膚の病気です。
- 合併症の一つに、皮膚の症状が治った後にも痛みが残ることがあり、日常生活に支障をきたすこともあります。

定期接種の対象、接種する方法・費用

定期接種の対象

対象者は年度によって異なります。
接種の機会を逃さないようにご注意ください。

①年度内に65歳を迎える方

②60～64歳で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

(注1) 令和7年度から5年間の経過措置として、その年度に70、75、80、85、90、95、100歳になる方も対象となります。

(注2) 令和7年度に限り、100歳以上の方は全員対象となります。



ワクチンを接種する方法と費用

定期接種はお住まいの（住民票のある）市町村（特別区を含む）で実施されます。
ワクチンを接種できる医療機関や費用、申し込み方法などについては、お住まいの市町村にお問い合わせください。